

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現	生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する	B	模試の結果は関係職員で共有できた。 3年生については、より具体的に受験方法や受験大学について話し合いがもてればよかった。	模試の結果の共有と更なる活用。
		個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる(1年)	B	課題提出・追試験を習慣化するよう努めた。 1年生の多くの生徒は学習に対して意欲的であった。 学習計画の設定(日常とテスト前)を習慣づけさせる。 上手にサブリを活用している生徒も見られたが、全員がサブリを上手に活用できている状況ではない。(宿題を出すことも必要)	学習計画を自分で立てさせ、チェックしていく必要がある。
		実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす(3年)	C	入試までに学力を伸ばし切れず、全員第一志望校現役合格を達成することができなかった。志望校の絞込みが遅かった。 教材のレベルが一部の生徒の学力に合わなかった。(数学)	早い段階から受験を意識した学習習慣や生活態度がとれるように指導する。早期での進路選択および学力の正確な把握と更なるきめ細かい指導が必要。 生徒が取り組む問題を厳選し、センター試験および一般入試に対応できる学力をつけさせる。
		「総合的な学習の時間」、「大学見学」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる	B	大学見学をし、その後実際に各自受験日程を立てさせ受験をシュミレートしてみることや、面談により受験に対する意識が高まった。	「大学研究」や「大学見学」を通して、さらに意識が高まるように指導する。
		「寺子屋学習」および「スタディサブリ」等の活用により、個々の学力の伸長を目指す	B	学習に対して地道に取り組める生徒が増えてきているが、学習習慣の定着までには至っていない。学力は少しずつではあるが、確実に向上しているように思われる。	個別指導の充実。宿題・課題とサブリを上手に活用する必要がある。
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、自らが掲げたテーマに対し、調査研究した内容をプレゼンテーションし、ディスカッションすることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。	A	・土曜授業を活用し、生徒たちの主体的な「学び」力を引き出すことが出来た。1年生が昨年度末に訪問した東日本大震災被災地訪問に関しても、2年次も継続してその事後学習を充実して行うことが出来た。 ・3年間をかけた体系的な繋がりのある力を育成していくかが課題。	・コースで取り組んだことに対しては、生徒のスキル向上や実学的な効果等を詳細に分析し、有効と認められたものに関しては、単年度の実施にするのではなく継続的に、かつより発展的な方策を常に発想し、計画、実行に繋げていくべきである。 ・時代のニーズに対し敏感なアンテナを張り、それに対応した内容、実践を常に心がけていく。
		系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。	B	・夏期休業の特別授業を利用して、幼児教育の体験ボランティアに多くの生徒が目的意識を持って参加した。 ・事後学習においてもレポート作成などを通して体験し学んだことをより深めることが出来た。	・保育だけでなく看護等、体験・実習型のカリキュラムを充実させることで、生徒の実学的な力の養成に結びつけていく。
		一般入試に対応できる学力習得を目指しながら、2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。	B	・各授業の特性を生かし、段階を踏みながら進路に結びつく実力を養成することが出来た。 ・小論文模試なども効果的に活用しながら生徒の実力定着に結びつけることが出来た。	・AO入試、推薦入試本番に向け、早い段階からの意識付けをすることで、より深く高度な実力を身につけることが出来ると思われる。 ・各教科の分野の特性を生かしながら、幅広くきめ細やかなサポートをすることで、更なる生徒の実力アップにつなげる。 ・一般に有しに対応したサポートを今後具体的にしていかなければならない。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適応できる「人間力」の育成に努める。	A	・部活動や生徒会活動などの課外活動は年々盛んになり、校内の活気に結びついている。文化祭などもより一層充実してきているも。 ・さらに多くの生徒が、困難や苦勞をいとわず、今の自分を乗り越え、さらに自らを成長させる活動に積極的に関わっていくことが重要。	・新入生や、現在積極的に課外活動に参加していない生徒にとって魅力的な活動を展開していく。 ・教員が生徒に対し、積極的に課外活動への参加を促していく。 ・現在の社会が求める人間像を常に念頭に置きながら、そこで大いに活躍できる生徒を、さらに育成していく。
美術工芸コース	希望進路の実現	キャリア教育を踏まえ、目標実現のため、適切な支援を行う	A	大学キャリア教育講師の講演の実施など。	
		専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る	A	基礎力、デッサン力の向上、入試科目の個別対応実施	
		アートセンター(美大予備校)及び進路情報会社との連携	A	連携して取り組むことができた。	
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う	A	生徒の情報交換などしながら、取り組めた。	
		美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。	A	生徒の興味関心を探りながら意欲向上、成長を図れた	
	生徒作品の充実	過去の美工展を総括し、更なる作品展の充実を図る	A	生徒の充実した作品を展示できた。	
		様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める	B	夏休みの美術館見学など実施しているが、もっと機会を増やしたい。	松本市美術館で行われる企画展の見学
	生徒募集活動の活性化	美術系キャリアのデータを活用した、募集活動の検討、実施	B	募集活動の検討の余地がまだあると感じる。	「メディアデザインの可能性と社会との関わり」講演検討
美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討		A	大学キャリア教育講師の講演の実施して成果があった。		

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
スポーツ サイエンス コース	競技力・競技実績の向上	競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けた指導計画に基づいた段階的な指導を行う。個々の競技力の向上とチーム力を向上させ、目標達成に導く。	A	柔道部団体・個人長野県大会優勝/全国大会出場 柔道部団体・個人北信越大会優勝 柔道部木崎全国大会5位入賞 空手道部個人長野県大会優勝/全国大会出場 空手道部団体・個人北信越大会準優勝 野球部春季長野県大会優勝 バスケットボール部長長野県大会4位 サッカー部長長野県大会3位	長野県大会優勝・全国大会出場、全国大会での活躍を目指し、その年に在籍している生徒の力を分析しつつ、目標達成に向けてより伸ばさせる指導法を日々探究する。 各部の実状に合わせた柔軟な指導体制を確立し、より効率的で効果的なクラブ運営が行えるよう様々な機関との協力体制を整える。
	学力向上・人間形成	高校生としての基礎学力の定着と、上位層のさらなる学力向上を目指す。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する。	B	上位層の学力を伸ばすことがかなわなかった。 コミュニケーション能力を向上させ、グループ内でのリーダーを育てることは実践できた。	学力に幅があるため、習熟度別授業による個々に適した学習環境を整える必要がある。 部活やグループ内だけでなく、学校全体におけるリーダーの育成ができるとうい。
	希望進路の実現	競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間力を高めることを両立していく。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓を積極的に行う。	A	上級学校の体育会系クラブで競技を継続する生徒が年々増えてきている。進学先も有名私立大学へ生徒を複数輩出することができた。	学力の高い生徒をより良い進学先へと導けるような指導ができるとうい。 進路開拓の為の大学訪問を積極的に行ってきたい。
食物科	各担任への連絡体制を引き続き整えていく	食物科連絡会を行い、各月の予定と各行事の日程や役割の把握を徹底する	A	連絡会の時間を短縮し、簡潔に行うことができた。	連絡会が定着し、各担任への連絡体制が整った。
	総合調理実習への対応	授業内容を研究し、他校の状況を調査してきたものをもとに、総合調理実習の授業を構築していく	B	1学年の集団給食実習において、他学年・他学科への販売を初めて行った。	1学年での販売実習の経験を総合調理実習にもつなげていきたい。総合調理実習は、次年度初の試みであるが、教員間の連携を密にして授業を構築していく。
	課題研究の各学年での指導内容の確立	最終的には3年で行われる卒業記念作品展に繋がる課題研究の各学年での目標を明確にし、指導の体制を整える	B	より専門的な知識と技術の向上を目指し、サービスなど実践的な指導を行うことができた。	次年度以降も実践的な指導体制を整える。また、各学年での目標をより具体的に設定し、3年次の卒業記念作品展につながるものにした。
	カリキュラムの検討	専門教科1単位35時間の授業を確保しつつ、進学希望者に対しては一般教科の更なる学力の定着を図れるようなカリキュラムを検討する	A	1単位35時間の授業確保は定着した。カリキュラムは現状を維持せざるを得ないので、現状の授業内で学力の定着を図っていく。	現状のカリキュラムで基礎学力の定着を図るには、一般教科での宿題を是非お願いしたい。また、専門教科でも基礎学力の向上にもつなげる授業内容を検討していく。
1学年	主体的な学習への取り組みと思いやりをもった行動への実現	遅刻欠席の連絡徹底、学習環境の整備など、基本的な生活習慣を確立させる。	B	遅刻欠席少ない 荷物の管理の徹底	より良い向上を目指す ロッカー上の私物を毎朝チェック注意が必要
		共同的・協力的な活動を踏まえ、他者への思いやりの意識を持たせる。	B	早期に適切な対応がなされていたがまだ他人への気配りが不足している	計画的なクラスHR運営とバランスのとれた席配置などの工夫必要
		社会人としての心構え等を1年次から身につけ、将来の進路について意識させる。	B	卒業生の話は良かった 面談等計画的な意識付けが出来た	
		日々の学習で時間の使い方(1日の予定)を設定させたり、清掃活動を全員で行うことを身につけさせ、主体的に努力できる生徒を育てる。	B	常に主体的によくやっているが、言われて行うこともありより主体的に 清掃のやり方知らない生徒多い	より自主的な清掃への参加 年度初めに清掃方法を教える必要 床の拭き掃除を検討
		HRの使い方を固定化させ、読書に専念できる時間を設け、読書を通して、見識のある心の豊かな生徒を育てる。	A	読書はする 出歩く生徒もいなく良かった	個々の読書本のチェック 1ヶ月読書量の目標設定するなど質の高い読書を 読書に集中する環境作り
		授業や講演会を通して、正しい性に関する知識を身につけさせ、健全な生徒の育成に努める。	A	度重なる教育で理解深まる 内容、回数ともよかった 4・5月の授業定着させたい時に授業ができなかった。	
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材への発展	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる	B	昨年度よりも遅刻が多くなり、ポイント指導で学年面接になる生徒が出てしまった	中だるみの雰囲気を取り、進路を控える者としての自覚をこれまで以上に促していく
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める	C	授業に加えて、何か+αをできたはずだ	小論文に対応するためにも、広い視野で物事を考察できるような力をつけさせる
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する	B	HR活動だけでなく、生徒会活動・部活動なども通じて、自らの意志で行動できる生徒が増えてきた	これからも生徒主体になるような活動を提供していく
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる	A	昨年度の教育講座で培った意識が継続できている	これからも意識継続を図る
		将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる	B	進路ガイダンス・進路希望調査・個人面談などを行うことで進路の意識は高まってきている	全員が進路決定できるように意識向上に努め、全力でサポートしていく
		沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる	A	事後学習の内容を充実させたことで、平和への想いを深めさせることができた	次学年などにしっかりと引継ぎを行い、平和学習の向上に寄与する
		新選挙法施行に伴い、18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う	A	8回の学年集会と模擬選挙を実施したことで、主権者としての意識を高められた	来年度は実際に主権者となるので、自覚を持たせられるようにアプローチし続ける
3学年	生徒一人一人の希望進路の実現と無事全員が卒業を迎えられるように適切な指導を行う。	担任、副担任そして教科担任間の連携を密にする。	A	個々の希望調査の扱いを研究する	
		自分に適した進路を早い時点で決定し、進学・就職実現のサポートをする。	B	出願の確認を確実に行う	今後これを生かしてほしい
		進学後・就職後、社会に出た後も通用する学力、人間力をきちんと身につけさせる。	A	卒業延期の生徒がいなかった	
		進路決定後、部活動引退後も基本的な生活習慣・学校内外での乱れのないようにする。	B	生活指導上問題がある生徒に対して香椿祭後に注意喚起をする必要がある	今後これを生かしてほしい

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする	B	各委員会の委員長、副委員長と顧問との接点を多くした。	もっと、密に連絡を取る。
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく	A	全校の意見から、パンの自動販売機の設置した。また、カルタ大会や展望台で昼食をなど、新企画を多く行った。	今年以上に企画運営を行う。
		東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる	A	募金活動を行い、熊本地震の復興支援を行った。	東日本大震災にむけて、募金活動を行い、現地に届けたい。
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする	A	全校生徒をどのように引き込むかを常に考え運営した。	全校だけではなく、地域との連携をとれるように計画運営する。
課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる	B	各方面の分掌と連絡をとれた。	各方面の分掌と更に密な連絡を取る。	
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校づくり、ならびに早期発見と早期解決(生活相談と連携)	B	アンケートは早期の対処としては有効	指摘や申し出をしやすい雰囲気のある定着を図りたい
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実(生活相談・特別支援と連携)	A	相談体制と対応、掘り起こしの機会など、かなり細かく機能している	各担任との連絡体制について考えたい
	先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的な生活習慣の定着	学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導	A	校内においては、ほほいい	朝夕駅前指導の(教員側の)うっかり忘れの防止策を考えたい
		教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築	B	P指導が統一的に適応されていないとの指摘がある	各教科会も交えながら改善策を考える必要性もある
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	B	性教育にはある一定程度の効果があると感じている	係としての研修と研究を高めたい
		情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実	B	日常のネットマナー指導にはある一定程度の効果があると感じている	世の中の事件の背景を日常的に考察したい
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	A	担任と学年主任の負担が軽くなるよう細かな配慮をしている	事後指導と同時に次の指導の未然防止という観点を強めている
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底	B	早い対応はしているものの、苦情が繰り返されるケースがあった	啓蒙や指摘の他にも、周知徹底の方法を多く揃えたい
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止	B	再発防止策の確立と確認については進展があった	生徒、先生方、見回り、各顧問との未然防止の具体策を定着させたい
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ(交通安全)	B	自転車事故が散見され、マナーに対する苦情が連続することがあった	啓蒙のみならず、姿を見せる指導を定期的に行なう必要がある
	生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供	A	細かな教室掲示資料、保護者宛て通知などは心がけている	PTAの会議などの参加率のアップ、また、その活用法も活かされている
		受験予定者と保護者への積極的な情報提供	A	冊子の作成・配布などは大切であると感じている	情報発信の質と機会(量・回数)を高めたい

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
進路指導部	適正な自己認識と進路選択	必要かつ有効な進路情報の提供	B	入試資料(雑誌、冊子など)が有効活用されるようになってきた。	「進路の手引き」の内容を再検討する。推薦入試ばかりでなく、一般入試についての知識、情報も生徒に伝達できるよう進路通信を活用する。教員側も生徒の学力を皆で共有できるよう、模試の結果の情報などを各科コースで分担しながら提供できる体制にしたい。
		ガイダンス・カウンセリング(個別面談)による支援	A	本校OBを中心にした職業理解ガイダンスは今年も好評だったが、各科コースの生徒のニーズに対し、より対応できる内容を検討したい。	3学年ガイダンスを小論文、志望理由書の書き方を主眼としたものに移行するよう検討している。
		自己理解のための適性検査・諸検査の実施	A	2学年の職業適性検査を語彙読解力検定に変更したことは有効であった。	1年時のYG検査など、より有意義なものになるよう精査、再検討する。
		講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置	B	信大受験希望者に対する説明会を新規に実施した。	保護者に対する進路説明会を充実させる。来年度、全校規模の進路講演会実施を立案する。
	希望進路の実現	就職未決定者0の実現	B	第1希望が叶わなかった生徒も若干名あったが全員就職できた。	就職に対する意識向上と、計画的出願を進路指導部、担任教諭と連携しながら向上、徹底をはかる。
		第一志望校への合格	B	一般入試受験者の約半数が第1志望校に合格することができた。また、多くの生徒は今年も推薦入試を活用し、皆見事に合格したものの、受験校に対し果たして第1志望校として強い志を持っていたかは考慮する余地がある。	指定校制推薦のありかたについては、学力向上策とも深い関係があるので、学校全体で考えていくべき課題だと思われる。
	社会人として必要な資質の育成	基礎学力・一般教養の定着	B	推薦(特に指定校制)入試に過度に(安易に)頼り過ぎると、日常の学業が疎かになる傾向はないだろうか。	推薦入試には「評定値」が出願条件となるので、通常授業・テストのレベル、評価の仕方など検討の余地があるのではないか。
		基本的な生活習慣を身につけさせる	B	面接試験、あるいは推薦入試対策としては相応の形になっている。	日常の学習、生活姿勢が進路に結びつくことを生徒に啓蒙する機会を増やす。(進路通信の活用など)
		面接指導を通じてのマナーの定着	B	2、3年時2回の面接指導ガイダンスと、多くの先生方の協力による度重なる練習、個別指導が実施できた。	より計画的に効率よく指導できるよう取り計らえるようにしたい。
	教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める	B	ほぼ計画通りで来た
授業変更・自習監督の円滑化			A	ほぼ計画通りで来た	クラス単独授業はできるだけ授業交換をしてほしい。ただ、mixクラスは単独授業自体が少ないので厳しい
来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成		学科コース主任会との連携	C	なかなか連携ができなかった	早くから連絡をしていきたい
		各教科との連携	B	ほぼ計画通りで来た	カリキュラムの早い決定
新テストへの対応		学力向上委員会との連携	C	なかなか連携ができなかった	学力向上委員会の決定事項を早く知っていく
成績処理の円滑な運用		担任が把握しやすい処理の流れを構築する。	B	成績会議資料、通知票を担任が作成する流れを構築できた。	正確なシステムを構築する。
憲法人権平和教育		憲法施行70年(18歳選挙権)を踏まえ、法の支配と憲法改正について弁護士を交えたディスカッション形式の勉強会を開催	B	生徒に考えさせる内容で良かった。	全校生徒が参加できる方法を考え改善必要がある。
行事企画の円滑な運営		2ヶ月前連絡の徹底	A	月曆案を早く提示できた	訂正確認等早期の徹底を
		ミスをなくす	B	ほぼ計画通りで来た	反省次年度への継続
		反省の集積	B	ほぼ計画通りで来た	反省を活かしていけるようにしていきたい
適正な定員確保のための入試		基準の見直し	A	特別入試受験者増加(昨年比) 県ヶ丘、蟻ヶ崎の併願者の増加	定員確保のために適正に見極めていくようにしたい
		入試内容の検討	A	食物科の一般入試でA方式を導入	
間違いのない教科書選択		各教科、各学年と連携し、確認もしっかりと行う。	B	教科書の改訂に伴い、例年より複雑だったため、確認が難しかった。	各教科主任とより一層連携をとり、適切な教科書選択ができるようにする。
	円滑な教科書販売ができるようにする。	A	各学年、各担任と打ち合わせをし、円滑な教科書販売ができた。	早めに準備をし、より一層円滑な教科書販売ができるようにする。	

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
図書視聴覚部	図書館利用の活発化。	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。	B	「ハロウイン」の企画に合わせ、図書を選定、紹介し、図書館への来場を呼びかけた。先生方に推薦図書を紹介していただき、冊子にまとめ、紹介した。全校生徒が委員会の企画について知り、図書館への理解を深められるようにすることが必要。	各クラスの委員との連携を大切にし図書館の利用を呼びかける。広報活動を充実すること。
	読書活動の推進	名著、名作、新書などの図書を積極的に購入する。生徒の希望図書を購入する。読書週間を設ける。	B	推薦図書を中心として、図書を購入した。生徒からアンケートを実施し、希望図書を購入した。「読書週間」の周知徹底をすること。	全校生徒が、「読書」の重要性を認識し、読書に親しむ機会を増やことを心がける。生徒からのアンケートを参考にしつつ、良書を選定していきたい。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。	B	ICTを実現する環境を整え、徐々にではあるが利用する機会は増えてきている。	積極的な視聴覚教材の利用を促すために、職員間でのノウハウの共有が図れる場を設けるなどし、より効果的な視聴覚教材の利用法を探っていく。
環境衛生部	生徒・職員の心身の健康問題の早期発見・早期対応	健診で指摘を受けた生徒へ年4回の受診勧告を行い、各科目標受診率を達成する。	B	内科・歯科・尿・視力で目標達成できなかった。	春休みだけでなく夏休みにも部活毎の勧告を行う。
		精神的に苦しい生徒は、担任と相談しSCや医療機関を勧め、居場所を多く確保する。方向性のないまま保健室・相談室利用を長期化させない。	A	医療機関を受診したことで精神的に楽になる生徒がいた。	相談室に職員が常駐となるので、有意義に活用していく。
	日々の保健指導・健康相談活動の充実	セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。	A	引き続き浸透させる。	
		生活習慣アンケートの実施、まとめを行い、展示発表を行う。	A	生活習慣だけでなく未成年飲酒防止の展示発表を行った。	結果を保健だより等でもっと活用していく。
	防災対策・防災教育の充実	実践に準じた避難訓練の実施	B	避難訓練の際に消防署の方に講話をして頂き、生徒に防災の意識づけができた	更に実践に則した避難訓練を計画し、実施する。
		様々な災害に対応できる環境整備	B	避難経路の確認を徹底した。	耐震補強を提案したい。
	学習環境の整備	教師生徒による全校清掃の徹底	A	行事前、通常授業をとおして清掃し、美化に取り組めた。	
校内巡視(清掃委員会)による、校内美化の注意喚起		A	清掃強化週間など設定して取り組むことができた。		
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	学級・学年PTA活動の充実	B	PTA研修旅行の参加者が増えた。文化祭時の「バザー」の協力者も多い。役員会への参加者を増やすこと、地区PTAへの実施地区を増やすことが課題。	クラスの評議員、地区役員に対して、役員会への出席をお願いする。
		地区PTA活動の充実			
		委員会活動の推進			
		研修機会の充実			
		総会・役員会・PTA研修旅行の参加者を増やす			
	中信地区私学助成推進協議会の活動を展開	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る	A	諏訪広域の諏訪市から助成への前向き発言を引き出した	
同窓会組織の充実活性化	PTA ピーターパンなど他団体との協力を図る。	B	他団体と連携を必要とする機会がなかったので、していない。	必要になったときに連携を図っていく。	
	イベントを組むなど総会を有意義なものとして参加者を増やす工夫をする。	B	同窓会役員の方の協力により、総会出席者が増え、活気ある同窓会になった。	同窓会の役員と連携をとりながらさらなる組織の充実活性化を図る。	
	先生方の協力を仰ぐ。	B	一部の先生方に出席して頂いた。	積極的に先生方の出席を促す。	
	役員会の開催。	A	例年通り開催できた。	次年度も行う。	

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
安全管理委員会・個人情報管理委員会	学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う	あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を行う	B	発生させてしまった事案に関して、未然防止ができなかった。今後は、不安を感じたらすぐに行動に移したい。	再発防止策に関しては、早急な立案、教員内での合意に至ることができた。
		教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を行う	B	取り扱う事案が多岐に渡り、委員会の力量の必要性が求められるのではないかと自問した。	多岐に渡る内容を、一つ一つ、確実に点検・立案し、あらゆる想定トラブルの未然抑止に努めたい。
	校内の教育活動において各教職員が「個人情報の保護に関する法律」ならびに「長野県個人情報保護条例」などの関係法令を遵守する環境を整備する	「個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)」の点検と浸透のための諸活動を行う	B	表立った問題点はなかった。	教職員側のさらなるコンプライアンス向上・定着のための働きかけを研究したい。
		上記の「管理方針」とは別に設けている「日常的教育活動におけるガイドライン」に沿って教育活動が行われているかを確認する	B	表立った問題点はなかった。	教職員側のさらなるコンプライアンス向上・定着のための働きかけを研究したい。
学校衛生委員会	健康課題の把握・対策	情報交換会を開催し、専門の立場からの助言をもとに対策をたてる。	A	情報交換会を行い、適切な対策が立てられた。	次年度も継続していく。
広報企画委員会	6月中学校訪問時には充実したスクールガイドを完成させる。	コストを下げ、すっきりとしたものにする	A	6月27日に完成、コストの関係で昨年より薄く、淡白なものとなった	7月上旬をめどに読めるスクールガイドを目指す。内容の充実を図る。第一高校が発信できるものを充実させる
		ホームページの煩雑な更新に努める	B	入試要項の更新が遅れてしまった。ブログの更新については煩雑に行うことができた。	スマホ対応にして閲覧数を増やす、ツイッターとの連携、記者の依頼、Web戦略を充実
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する。	A	補助金を適正に配分できた	次年度も適正に配分する
	部活動活性化への予算配分	部活動活性化へ予算配分を適正に検討する。	A	予算配分を適正に検討した	次年度も適正に検討する
将来構想・少子化対策委員会	将来構想	5年先を見越した学校づくりを検討する	B	コース編成、カリキュラムを検討した	平成28年度中に決定
	少子化対策	生徒急減期に安定して定員を確保できる具体的な策を検討する	B	校舎等箱物が広報につながるかと検討したが対費用効果が薄いと判断された	次年度へ継続審議
学力向上・新テスト担当委員会	個々の教員の持つ「学力」という言葉の意味を統一させたいと、その向上のための諸活動を行う	その諸活動の成果として進学実績が伸びるよう、進路指導部と教務部と連携し、各教科の対策をまとめ、実行する	B	できる限りの会議を重ね、今の生徒、今後の生徒の学力を伸ばす制度マップの構築を目指した。	2017(H29)年度1学期中に、進路指導部と教務部と、さらに詰めなければならない細かな課題に取り組む必要がある。
	やがて導入される「新テスト」について研究し、その対策としての諸活動を行う	情報の収集と分析に努め、職員の研修会を行い共有する。その上で、進路指導部と教務部と連携し、各教科との対策案をまとめ、実行する。	B	調査と研究を重ねたが、新テストについては見通せない部分もあったが、校内の取組みの用途は示すことができた。	進路指導部と教務部と連携し、各教科会での検討・計画を取りまとめ、さらに、科コースの指針を構築する必要がある。

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊かにし言語文化に対する関心を深める。	漢字検定全校受験	A		
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける	B	進路と協力しながら学校全体としての取り組みが必要	
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習	A		
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく	B	教科アンケートを活用しながら、各科・コースに応じた指導力の向上に努めた	基礎学力だけでなく、思考力なども伸ばせるような授業を模索していく また、アクティブラーニングの機会を少しでも増やしていく
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する	B		
		一般・推薦入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う	B	一般入試における得点力をもう少し伸ばせられたら良かった	生徒の進路実現に向けて、手厚い指導を継続的に行う
	カリキュラムの検討	各科・コースのニーズに応じたカリキュラムを検討していく	B	今までよりも基礎学力が伸びるような、また、様々な進路に対応できるようなカリキュラムを検討した	来年度もさらに検討を積み重ねていく
主権者としての自覚向上	授業等を通して、主権者としての意識を高める	B	現代社会や政治・経済の授業で、意識的に主権者としての自覚を促すような内容を取り入れた	主権者教育とも連動した指導を行っていく	
数学科	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。	A	年間2回を計画していたが、希望者が多くいたため、3回実施した。個別で指導を行い、2級合格者を出すことができた。	1次合格者は多く出たが、2次合格が難しく、今後の課題である。
	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。	A	大進以外の生徒も多く模試などを受けた。個別に指導し、学力向上に努めた。3学期中間テストでは、1、2年一斉テストを行い、コースを跨いだ共通問題を行うことで、基礎学力の定着と、数学に対する意識の向上を図ることができた。	一斉テストを年2回行い、学力向上させるために工夫していく。
理科	基礎学力の定着と科学的応用力の向上。	実験や教材等を効果的に活用し、印象に残るような授業展開から、自然科学に対する理解度を深める。	B	物化生地と分野が分かれている性格上、実験の数などに、どうしても差が生まれてしまう。また、授業時間数に限りがある中で、ある程度の実験や教材の活用はできたが、充分とは言えなかった。	実験ができない、教材ができない場合は、身近な話題に結び付けるなどして、取りつき易くすることを心掛ける。
		問題演習、小テストを通しての基礎学力の定着、科学的な応用力を付けることにより、学力の向上を図る。	B	上記と同様だが、演習問題が扱いやすい分野、扱いにくい分野があるため、演習量に差が生じてしまう。また、教科書の内容を終わらせなければならないため、十分な問題演習や小テストはできなかった。	基礎学力の定着のためには、授業だけでは困難なため、宿題の量を増やすなど、家庭学習をより促すことを心掛ける。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握	A	仲介業者を入れて全国平均等も見やすく、継続をしていく	特になし
		バレー・バスケットボールによる集団スポーツでの体力コミュニケーション能力の育成	B	コミュニケーションの取り方をより工夫する	1学年に工夫を入れる。
		柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。	A	良い	特になし
	心と身体の育成のために・・・	「心と身体のバランス」の重要性についての育成	A	概ね良い	特になし
		青春期の「性」に対する考え方の育成	A	良い	特になし
		現代の「少子高齢化」「社会保障」等の諸問題に対する考え方の育成	B	時事問題をより入れる	新聞記事等をより活用する
外国語科	基礎学力の充実	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開小テストなどを取り入れた基礎内容の定着	A	習熟度別講座展開により、無理のない授業進行や、講座に合ったテスト展開をすることができた。	基礎学力定着のため、講座再編でさらに授業の充実をはかる。各講座の到達目標を定める。
		長期休暇の課題提示とアフターフォロー	B	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。さらに内容の検討が必要である。	長期休暇の学習促進を図る課題提示を行い、定期テストと上手に連動させていく。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強	A	ALTの関わりのおかげで、特にスピーキング面において生徒が前向きに取り組んだ。	様々な講座で積極的にALTの活躍場面を設け、生徒の4技能向上を目指す。
	進路実現のサポート	センター・二次試験・私大入試に向けた問題演習と個人指導	B	問題演習の機会は数多く持つことができたが、個々の志望校対策に課題が残った。また、担当の先生に任せきりになってしまった。	模試等を活用した面談を通して、生徒が主体的に志望校分析をしていくよう促す。また、科全体として個々の生徒の志望校対策について検討する機会を設けたい。
		サテライト教材の活用	A	サテライト教材への生徒の興味関心が高く、積極的な参加が見られた。例年は行っていなかった1・2年生でもサテライトを実施することができた。	生徒が主体的に教材を活用していける体制を作り、今後も上級生が使ったものを下級生も上手に利用していけるように連携を取っていく。
		英検の受験促進および二次試験面接指導	A	面接指導が攻を奏し、英検二次試験で高い合格率を上げることができた。	英検受験者を増やすような働きかけをし、面接指導も継続して行う。

2016年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
芸術科	情操教育の充実と集中力の育成	1人1人の個性を尊重し、自立した表現を目指す	A	生徒の個性を引き出し、考える力と表現する工夫ができた。	より一層の充実を目指す。
家庭科 (専門教科)	実習を通してより高度な技能の習得を図る	3年まとめの実習・発表の実施と総合調理実習の構築	B	①まとめの実習はできたが、通常授業での発表の機会は持てなかった。 ②1学年の集団給食実習において、他学年・他学科への販売を初めて行った。	①実習の成果を発表する機会を作っていきたい。 ②1学年での販売実習の経験を活かし、教員間の連携を密にして授業を構築していく。
	各専門教科を関連付けて学ぶ	公衆衛生と衛生法規の統合、調理の技術だけでなくマナーやサービスについても学ぶ	A	①今年度は移行期で指導が大変だった。 ②調理理論の中でマナーやサービスの指導を行うことができた。	①指導方法の確立。 ②専門教科(座学)を実習に反映させて、アクティブラーニングの授業を展開していく。
	課題研究の充実	各学年での目標を明確にする。また、食物科の生徒として、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせる	A	食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせることができた。	各学年での目標をより具体化・明確化する。引き続き、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせていく。
家庭科 (一般教科)	生活者としての知識や技術の習得	衣・食・住に関する実習の充実を目指す	A	被服実習では作品を3パターンから選択させ、自分の技術に見合った実習をさせることができた。	実習を効率良く進めるために時間配分を考慮する。
	青年期の課題と自立の意義の確認	青年期における自立を理解させ、生活スキルの習得を目指す	A	青年期の特徴を学び、精神的自立や経済的自立の必要性を理解させ、高齢社会について考えさせることができた。	共生社会の実現に向けて課題を考えさせる。
	共生社会について学ぶ	消費者教育の学習を通して、現代社会の現状と課題を考えさせる	B	持続可能な社会の実現を目指して新聞記事を読ませ、社会へ関心を向けさせることができた。	現状を把握させるだけでなく課題へつなげていく。
	保育・福祉の理解と課題	乳幼児の発達と生活について知識を習得し、実践的な態度を育成する	A	乳幼児の身体発達、精神発達を理解させ、育児を身近に感じさせることができた。	より身近に感じさせるために、子どものおもちゃ製作など実践的な授業を取り入れたい。
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)	A	SNSについて、著作権や肖像権について理解が必要。インターネットを安全に活用することができた。	SNSについて、具体的な例も増えているので示すことにより理解向上する。カメラ付きの端末についての理解を向上する。
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算、プログラミング)	B	最低限の技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
	コミュニケーションを行う能力を養う	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)	B	スライドの表現力を向上させる。工夫して飽きさせないスライドを作れるようにする。	情報を理解し、分かりやすく表現できるようにさせていく。
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身に付ける	A	全学年の生徒に対し”デッサン指導”を強化することが出来た	
		集中力・持続力・体力の向上を図る	A	アート系、クラフト系共に授業内容を工夫し目指したレベル達成	
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身に付ける	A	生徒の観察、的確なアドバイスにより個々の能力を向上させられた	
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身に付ける	B	多くの課題を通じ興味、関心を高め、自己表現の幅を広げさせた	まだまだ向上させられる余地がある。新入試制度も見据え新課題検討中